令和　4　年度

学　校　評　価

＜記入上の留意点＞

○ 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。

○ 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。

○ 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

尼崎市立　尼崎高等　学校

令和4年度　学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

1　未来志向の教育

2　個の尊厳や人権の尊重

3　家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

1, 常に生徒の安全を優先し、安心できる学校づくり

2, 開かれた学校づくり

3, 新しい市尼を創造していく学校づくり

学 校 評 価 の 観 点

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
1　教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む **(1)　授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める** **(2)　障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる** **(3)　食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る** **(4)　体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る** **(5)　積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る**	**2.9**	**3.0**

取組	成果	課題と改善策
google for educationの「classroom」のアプリの運用を継続した。また今年度より1学年から新課程となり、新学習指導要領に合わせた授業展開には、ICTが必要不可欠となり、全国で始まったBYODを本校でも導入し、学校内での使用を可能とするためソフト面やハード面の整備、また使用におけるルール作りなどを行った。(教務部)	コロナ禍で出席できない生徒や学級閉鎖中の学習補償として、補習動画の配信や簡単な小テストなどを遠隔で行った。また今まで紙面で実施してきた生徒・保護者アンケート、日々の体調管理(検温結果)、科目登録などもPCやスマートフォンから「Google form」を利用して実施し、集計作業など教員の業務の軽減にもつながった。特に「meet」の利用により、授業のLIVE映像が家庭に配信でき、家からでも授業に参加できるようになった。また普通教室のプロジェクター設置により、ICTを活用した授業も盛んに行われるようになった。(教務部)	生徒が保有するPCのキッキングやMDMへの紐付けなどに必要以上時間を要した。特にMDMや管理は市内高校を一元管理するために、市教育委員会が行うべきであると考える。 また、BYOD導入だけでなく、いかにPCを利用していくか各教科での話合いや研修が必要であると考える。(教務部)
配慮が必要な生徒に対して、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた合理的配慮ある支援を行った。また、必要に応じてSSWや医療につなげ、連携することができた。(保健部)	生徒や保護者との面談を行うなど、連携を密にし、生徒や保護者の願いを聞き取ることで、各教科で必要な合理的配慮が実践できた。(保健部)	特別支援校内委員会を定期的に開催できなかった。また、生徒によっては合理的配慮を行うまでに時間がかかってしまった。(保健部)
保健体育の授業においてはICT関連教材、器具(InBody・ダートフィッシュ等)を積極的に活用し、情報を活用した授業展開を行った。 新体力テストを実施・集計し、体力運動能力の向上を図った。 クラブ間同士の意見の交換会。 高大連携として、大学より講師を招き特別講義を行う。(体育科)	体育の実技の中で生徒のフィードバックで活用した。自分の動きを動画を通じて確認することができた。また、次に行う際に動画で確認したところを修正する活動が見られた。自分の身体を上手く動かすことの難しさを楽しめた。 学期ごとにクラブ壮行会や報告会を実施することができた。 「スポーツ経営学」「スポーツ医学」「スポーツ栄養学」など特別講義を行い、生徒の関心・意欲が高まった。(体育科)	ICTの活用と運動量の確保の両立が課題である。 壮行会や報告会により生徒の意欲が高まったが、大会や発表会のない部の活動にも注目したい。 特別講義により意欲が高まったが、日頃の取組に活用できるかが課題である。(体育科)
図書委員会活動の充実(図書部)	図書委員にも様々な思いを持った生徒もいることから、委員会の業務をおこなっていくなかで、できる範囲の業務を行い、生徒同士でフォローするなどの行動が自然と行われた。(図書部)	今後、更なるバリアフリー化などの対策がとれればと考える。(図書部)
令和４年度に開催したオープンハイスクールにおいて、参加申込と事後のアンケートをGoogleformを活用する。会場のICTを活用した環境設備を充実させる。(総務部)	第１回目(７月)が急遽中止となったが、その際にGoogleformで受け付けていたメールアドレスに一斉送信するなどして中止連絡が迅速にできた。本館体育館のスクリーンを新調した結果、映像やプレゼンテーションがかなり見やすくなった。(総務部)	当日やむなく参加できない中学生に対して、オンラインで参加できるような体制を整える。(総務部)

予鈴での着席を励行し、落ちついた学習環境を構築する。 人権学習を通じて人との関りについて考える時間を持たせる。 部活動の入部を促進する。 個人端末の活用を促進する。（１学年）	４月の野外教室から時間を守ることの意義を理解し行動することが定着した。 周りの人とのかかわりについて考えることができつつある。 多くの生徒が部活動に入部して学校行事などに取り組んだ。 後期人権学習における学級討議では、個人端末を活用しクラス全員の考えがすぐに共有することができ誰一人の意見も漏れることなく討議を進めることができた。（１学年）	年間を通じて日々の行動を大切にすることを身につけていきたい。 まだ幼さが抜けない者もいるので引き続き注意していく。 活動に合わずやめた生徒もいるため、再度違う部活に入部するチャンスを作るなど様々なサポートを実施していきたい。 Wifi環境が安定せず、授業時間に使うことができないことが多々ある。（１学年）
朝学習（ＳＨＲまでの時間帯で課題に取り組む）の継続。 人権教育の中で障害者問題に取り組み、共生社会の基礎を学ぶ。 各教室に設置したプロジェクターを利用し、情報活用能力を育成する。（２学年）	遅刻者が増加し、落ち着いて教室で課題に取り組む環境が失われつつある。 生徒同士が意見交換を重ねることで障害者への認識が高まり、どうすれば共生社会を形成するることができるかを考える良い機会でした。 生徒たちはまだタブレットを持っていないので、教師側のみの対応となるので活動内容が限定されてしまう。（２学年）	３年生では受験とリンクさせ、基礎学力の定着を図る。 障害者と交流する機会ができれば、より効果的な学習ができると思われる。 タブレットがない状態で情報活用能力を高めるための工夫が必要である。（２学年）
定期的に全国模試を実施し、人権学習では社会に出る前の心構え等に備えた。 体育科を中心に取り組むことができた。（３学年）	現状を分析し対策に務め、人権学習で １８歳での成人になる意識が高まった。 運動部を中心に全国レベルに到達できた。（３学年）	進路希望実現に向け、市教委から指導主事を派遣していただき現状での教員不足を補っていただいた。このような状況から脱出するためにも受験指導ができる人員配置を検討いただければありがたい。 人権学習等、ＬＨＲの時間が十分に確保できていない。 体育科への偏見が多く誤解が多々生じた。もっと活躍している体育科の生徒への温かい支援等が必要である。 情報機器へのモラルを充実させる必要がある。（３学年）

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
２ 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る **（1） 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る** **（2） 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める** **（3） 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める** **（4） キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力の育成を図る** **（5） 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める**	**2.9**	**3.0**

取組	成果	課題と改善策
昨年度に引き続き、健康観察や手洗い・換気の徹底など、感染予防の習慣が身に付くように取り組んだ。 長期欠席者など気になる生徒について教職員間で情報交換を密にし、必要に応じてSCやSSWにつないだ。また、支援の方向性を共有化し学校として対応できるよう、必要に応じてケース会議を行うなど支援体制を整えた。（保健部）	固形石けんから液体せっけんに変更することで手洗いを促進することができた。また、Googleformによる毎朝の健康観察により、自分の体調に関心を持ち、体調の不調に早期に気づける態度が身に付いた。 カウンセリング委員会を定期的（月1回）に開催し、その内容を教職員間で共有することで、気になる生徒について共通理解が図れた。また、個々の支援について、ケース会議を行うなど、担任一人が抱え込むことがないようチームで取り組めた。（保健部）	ネット依存による睡眠不足の生徒に対して、効果ある指導が必要だと考える。 学年会を定期的に開催するなど、生徒の情報共有ができる場を作る必要がある。（保健部）
生徒会通信の発行。 登校指導により挨拶を促し、交通ルールを守ることを学ばせた。 昼休みに巡回して生徒たちの様子を観察した。 女子も制服としてズボンをはくことを選択できるようにした。 いじめに関するアンケート調査を各学期に行った。（生徒指導部）	生徒会の取り組みを周知できた。 挨拶をする生徒が少し増えた。 女子でズボンやネクタイを着用する生徒が出てきた。 いじめの早期発見・早期対応につながった。（生徒指導部）	生徒会通信だけでなく、生徒指導部通信の定期的な発行が課題である。 自転車置き場の停め方を年間を通して指導した方がよいと思うが、学年の協力が必要である。生徒指導部だけでなく、学年などと協力してできればよいと思う。 制服だけでなくもっと多様性を受容できる環境を作れたらいいと思う。（生徒指導部）
集団行動を計画的に実施。 クラスやクラブ活動での生徒との面談の時間を多くとるように心掛けた。（体育科）	体育祭で集団行動を発表することができた。集団行動に取り組むことにより、他者への関心が高まり体育科として一体感を感じることができた。 小さな問題のうちに管理職や生徒指導部、教育委員会と報告・連絡・相談をするようになった。家庭の問題等、ある程度関係教員が情報を共有して、見守りが出来ている。（体育科）	人間関係が希薄で関係性を築くには時間が必要である。自尊感情を育み、他人に対しての尊重や思いやりの気持ちを大切に成長させたい。 見えない問題を抱えている生徒の小さな変化に気付けるようにならなければならない。また生徒の問題が解決したら終わり、ではなく、その後の様子も経年的にみていきたい。（体育科）

図書委員会活動の充実　（図書部）	図書委員会には、毎日図書の貸し出し、返却を行うカウンター当番の制度があり、学年、体育科、普通科の枠をこえて日々の当番を決めており、幅広く人的交流が期待され、委員としての明確な役割をこなすことによる責任感などの醸成にも役立っている。（図書部）	カウンター当番としての活動は限定的なものであるので、自主的に活動できるような部分を考えることができればさらに深い達成感が得られるのではないかと考える。（図書部）
人権学習の中で、インターネット上の差別問題、いじめ、障害者、在日外国人との共生、部落差別問題などを自分たちの課題ととらえ、解決に向けて何ができるかを考えさせる。（人権教育）	人権学習の中で、インターネット上の差別問題、いじめ、LGBT、障害者（肢体不自由）、沖縄の歴史と文化、就職差別問題について学習することができた。（人権教育）	部落差別問題、在日外国人との共生などについては、今年度は重点的に行うことができなかった（就職差別の一つとしては扱った）。（人権教育）
進路ＯＲなどを通じて、１・２学年の生徒は早期から進路に対する意識を高めた。（進路部）	進学希望者については高い目標に向けて最後まで努力させることができた。就職希望者については望ましい職業観・勤労観を育成しつつ、就職先を決定することができた。（進路部）	基礎的な学力向上はもとより、社会に出てから必要な能力の育成がより一層必要とされる。（進路部）
予鈴での着席など時間を守ることを大切にする。 後期人権学習では、神戸コスモス（障がい者野球）の方のお話を聞き、人権学習に取り組む。 自分の意見を述べ、相手の意見を聞き、人との関りについて考える時間をもつ。 環境の整備をおこない、落ち着いた学校生活を送れるようにする。（１学年）	４月の野外教室から時間を守ることの意義を理解し行動することが定着した。 「普通に接してほしい」この普通とは、いったい何であるのか多様性を重視する観点から考えることができた。 自分の意見は述べることはできるが、まだ幼さが抜けていない生徒もいる。 各家庭や医療機関とも情報共有をおこなうことができ、生徒の実態に見合う指導ができている。（１学年）	１年間を通じて常にできるように仕掛けを作っていく。 今だけでなく、２年生に進級しても思いやりに満ちた人間関係が構築できるよう日々の生活を大切にしていきたい。 まだ、幼さが抜けない生徒もいて、人とのかかわりについて、日々の生活から注意してみていきたい。 家庭や医療機関と連絡を取りながら対処する担任の時間的余裕が少なく、休養を取ることが困難である。（１学年）
始業のチャイムで着席完了できるように遅刻指導(学年スタッフによる廊下での遅刻指導)の徹底を図る。 年２回人権学習に取り組んでいる。 年３回のいじめアンケート・担任との面談の実施 進路実現に向けて、リクルート社と連携し、アプリを利用、大学の研究を深めさせる。 多様な入試に対応できる力を身につけさせる。(小論文模試・講演会、全国模試、進路講話等) 不登校生徒に対してＳＳＷ・カウンセリング委員会・学年が連携し対応していく。（２学年）	どうしても常習者（家庭の事情）が増え、その対応に苦慮している。 生徒同士が意見交換を重ねることで道徳心の向上がみられた。 いじめ認知をし、見守りをすることでいじめに対する教員の意識が変化してきている。 夏季休業後の進路調査でその成果がみられた。２年後の進路実現への意識が低い生徒への対応に苦慮した。 少しずつでは、あるが遅刻しながらでも登校できる生徒が増えてきている。（２学年）	担任・家庭と連携を深め、時間厳守できる生活ができるように継続的に指導する。 講演内容の工夫が必要と思われる。 担任を通して、生徒観察を強化し、未然に防ぐ対応が必要である。 今後より具体的な進路指導を深めていく必要がある。また、３年生４月から進路実現に向けての行動ができるように指導していく。 不登校生徒への配慮をしていく必要性を感じている。（２学年）
朝の学習から終礼後の掃除まで熱心に取り組んだ。 ＨＲクラス単位で担任が中心となり様々な場面で指導に取り組んだ。 いじめアンケートや担任との面談等を実施した。 個人の価値観に応じて取り組んだ。 こまめなコミュニケーションに努めた。（３学年）	３年間で基本的な生活習慣が十分に身についた。 担任の熱い思いが生徒たちにしみこんでいった。 ３年生になり生徒の個性が見えてきて人間関係も適当な距離で作ることができた。 進路希望に応じて多角的な観点から能力の育成を育んだ。 担任が丁寧に対応しているので問題はなし。（３学年）	コロナ禍のため様々な制限の中での取り組みは難しかった。 授業中心の関わりだったのでもう少し学校行事等で社会的な内容まで取り組んでいく時間が必要であった。 いろんな場面でのコミュニケーション不足（コロナ禍のため十分な時間も無かった。）の改善が必要である。 家庭環境の問題まで学校で処理をするのはいかがなものかと痛感する。（３学年）

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
３　家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む **（1）　教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る** **（2）　学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める**	**2.6**	**3.5**

取組	成果	課題と改善策
新課程となり、カリキュラムの改編を行い、今年度１学年より新しい授業がスタートした。評価方法も観点別評価に移行し、各科目のシラバスの作成、評価規準、ルーブリック等を作成し、新１年生の生徒、保護者に丁寧な説明を行った。「総合的な探究の時間」の授業も始まり、身近な地域での課題をテーマに授業を展開した。（教務部）	教員側も生徒側も評価による混乱は少なく、比較的スムースに導入できたと考えられる。また、総合的な探究の時間では生徒一人一人が身近な地域をテーマに課題を発見し、解決していくためのプロセスを考えることができた。（教務部）	観点別評価を行っただけに留まらず、PDCAサイクルの確立、特に評価後に授業の対策・改善を計り、常により「わかる」「できる」が実感できる授業の構築につなげていきたい。（教務部）
SCによる教職員対象のカウンセリング研修会を行った。（保健部）	教職員がSCによる研修を受けることで、悲嘆（グリーフ）ケアとトラウマについて理解し、対応できる力を身に付けることができた。（保健部）	カウンセリング研修会を２学期末考査中に行ったためか参加者が少なかった。実施時期については次年度の課題である。（保健部）
生徒のボランティア活動を支援した。 地域の餅つき大会に生徒と共に参加した。（生徒指導部）	学校外での活動をすることにより積極性を身に付けられた。 地域との交流が深まった。（生徒指導部）	多くの生徒が自ら参加できるよう、意識を高めたい。（生徒指導部）

部活動を中心とした地域開放、地域清掃活動等を積極的に行った。 体育科２年生のスポーツ総合演習の授業で地域の幼稚園との交流授業を行った。（体育科）	生徒が自ら考え行動する機会を与えることができたと思う。人の前に立って話したり、イベントを企画するなど普段の授業では学びにくい体験ができた。わからないことや、できないことに対して、生徒同士の教えあいの場面が多くなった。 生徒への指導的立場や幼児の特性の理解を促すことができた。（体育科）	地域との連携・協働が部活動に偏っているので、今後部活動以外の面での実施していきたい。 交流授業を２年生全員が担当する時間的確保が難しかった。（体育科）
新しい教育活動及び学校活動及び学校行事に必要な環境を計画的かつ早急に整備すること。（総務部）	新しい教育活動に必要な環境を計画的かつ早急に整備することを目指したが、コロナ感染症対策の制限もあり大きく進めることはできなかった。（総務部）	SDGｓ教育の推進と実践。（総務部）
図書室利用の促進に向けた取り組みとして、教員への推薦図書の募集などを行う。（図書部）	教員の図書室利用数の増加。（図書部）	推薦者の少なさ。より多くの先生方からのリクエストを得て、多様なニーズに答えていきたい。（図書部）
兵庫県教育委員会の「人権教育基本方針」・「外国人児童生徒にかかわる教育指針」に基づいて、同和問題が人権問題の重要な柱であると捉えつつ、障害のある人、外国人、多様な性、子ども等の人権に関わる課題の解決に向けた、教職員研修を行う。（人権教育）	教員向けの人権研修として、女性差別問題、コロナ禍の高校生、ハンセン病家族について学習した。まとめの職員会議等で情報を共有した。（人権教育）	「尼崎市人権文化いきづくまちづくり計画」を学校現場でも具体化できるよう、個別的な人権課題について研修とともに個別的な人権課題を横断的にとらえるスキルについて研修が今後も必要と思われる。（人権教育）
let'sあまTALKなど地域の取り組みに参加するだけでなく、地域清掃などをして地域とともにある学校であることを意識する。（１学年）	地域清掃をする中で、人との関りや地域の課題について考えることができるようになりつつある。（１学年）	地域とのかかわりを持つために校外に出ると安全に関することなど課題が生まれる。そこでICTを活用した取り組みを構築していきたい。（１学年）
12月地域ボランティア（校外清掃）行いました。（２学年）	８か所に分かれ、担任指導の元清掃活動を行った結果、地域の方々から温かいお声掛けやお礼の連絡を頂き、交流をすることができました。（２学年）	事前に清掃場所の確認をし、少しでも地域貢献できる行事にする必要がある。（２学年）
１時間の授業を大切に取り組む指導を行い、且つクラブ活動や生徒会活動を中心に校内だけではなく、地域との連携を実施している。（３学年）	塾や予備校に負けない力強い授業がいくつも展開された。 クラブ活動や生徒会活動で広く地域の方々と交流し、いろんなイベントで学校内を知っていただく機会が増加した。（３学年）	教科によっては教員の人手不足のため生徒にとって満足のいく授業が実施されなかった。 マスコミ等の悪い影響で本校がかなり誤解されている。もっと現状を知っていただき「マスコミに惑わされない本当の市尼」を強くアピールできればと思う。（３学年）

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
４　安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る **（1）　安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る** **（2）　防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る**	**2.9**	**3.0**

取組	成果	課題と改善策
３月に１年対象の救命講習を実施予定である。（保健部）	尼崎市北消防署の方から、心肺蘇生法・AEDの使用について直接指導してもらうことで生徒の安全に関する意識が高まり、実践的な応急手当が身に付くことができる。（保健部）	教職員対象の救命講習がコロナ禍になって数年実施できていない。また、毎年、自転車による交通事故が多いことは課題である。（保健部）
計画的に集団行動を実施。 （体育科）	日頃の集団行動の取り組みもあり、防災訓練でもスムーズな行動ができた。（体育科）	実際に災害が発生したときに、訓練と同じように落ち着いて行動できるかが課題である。（体育科）
防災・非常時だけでなく日常の指導においても全職員が生徒の安全を最優先をする意識をもって行動する。（総務部）	学校生活において、生徒の安全を第一に考え、行動できた。（総務部）	生徒、教職員だけでなく、地域住民を含めた総合避難訓練を実施する。（総務部）
登下校の安全指導を実施。道路の左側を通行する、自転車を乗るときイヤホン・スマホを使用しない、朝の混雑時に校内では自転車を降りるなど交通指導を行った。（生徒指導部）	大きな事故は無く、自転車による踏切や車道での右側通行が少なくなった。 地域の方と協力して登校指導することができた。（生徒指導部）	注意しても言うことを聞かない生徒に対してどう対処すべきか迷った。 登下校指導は、生徒指導部だけで行うのではなく、職員の協力体制を整えることが課題である。（生徒指導部）
自転車登校を含む通学指導の徹底 教室の清掃・ロッカーの整理整頓　（２学年）	定期的に指導しているが、地域の方々からの苦情が増加している。 生徒自ら行動し、清掃活動・整理整頓ができるようになった。（２学年）	ＳＨＲ・ＬＨＲ等学校生活の中で注意喚起する機会を増やすこと。また、自転車の安全指導が必要である。 教室以外の場所にも目を向ける必要がある。（２学年）
登下校のマナーについて全般的に向上するように指導した。 避難訓練等を真摯に取り組むようにした。（３学年）	残念だが多数の事故があった。 防災を意識しながら学校生活を送ることができた。（３学年）	１件の事故が起これば、全てが不十分に捉えられてしまうので、より一層、丁寧で根気よく注意喚起していく。 ３年生だから慣れてきており内容を理解しているが迅速な行動にはなかなか移すことが難しかった。（３学年）

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自律の精神に富んだ心豊かでたくましい人間の形成を目指す。学校・家庭・地域との密接な連携により、生徒の希望進路実現を図り、信頼される学校づくりを推進する。 **（1） 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開** **（2） 教育目標の具現化と指導の充実**	3.0	3.0

取組	成果	課題と改善策
昨年は各教科の代表の先生方に協力して頂き、日頃行っているICTを利用した授業を紹介する研修及び、「総合的な探究の時間」の実施に伴う研修も企画し、教育と探求社の協力のもと研修を実施した。（教務部）	ICTの扱いに得手不得手はあるが、苦手な先生方においてもまず最初の一歩につながる研修となった。（教務部）	今年度は具体的な研修ができなかったことが課題である。BYODにより、生徒が一人一端末、学校にPCを持ち込み，学校生活の中で活用していくのにICTは指導に不可欠になる。よりわかりやすくICTを利用していくのに具体的な使用方法やアイデアなどを話し合う研修が必要になると考えられる。（教務部）
生徒が主体的に取り組める活動をする機会を提供する。 幼稚園や成人式などのボランティア活動の機会を提供した。（生徒指導部）	主体的に活動する機会を提供することができた。 園児たちと触れ合うことにより、自分の将来を考えさせるきっかけを与えた。（生徒指導部）	様々な事案に対して、組織的な対応ができる体制づくりがより一層求められる。（生徒指導部）
地域への働きかけとして校外清掃を行った。 （体育科）	地域への働きかけを通じて、本校の活動について知ってもらうことができた。FM尼崎でも校外清掃の取り組みが紹介された。（体育科）	生徒の自主・自立という面ではまだまだ指導していく必要がある。（体育科）
図書室の利用環境の改善、読書習慣の定着に向けた取り組み。（図書部）	新着図書案内や生徒のリクエストを通じて幅広いニーズにあった蔵書の充実を図っている。また、各クラスの図書室の利用実績なども定期的に発信している。（図書部）	コロナ禍もあり、まだ難しいところもあるが、学年と連携を図り、図書室をクラスで利用することの再開などを考えていきたい。（図書部）
生徒一人一人が希望する進路の実現を目指し積極的に努力することを通して、学力だけでなく人間性の面でも大きく成長することを目指した。昨年度から実施の「大学入学共通テスト」や入試改革における新入試の情報収集を行い、学年と連携を密にしながら進路指導を行った。（進路部）	３学年進学希望者に対する補習や小論文・面接指導及び各ＯＲ等を実施した。 ３学年就職希望者に対する面接・作文・礼儀指導及び各ＯＲ等を実施した。 １・２学年の生徒に対するＯＲ・ガイダンス等を実施した。（進路部）	進路指導部と学年、他の教員との連携が大切と思われる。（進路部）
予鈴着席、あいさつ励行、一人一役清掃活動の徹底。落ち着いて学校生活を送るようにする。 行事実行委員を中心に学年行事等、生徒の自発的な活動を大切に積極的な参加を促す。心落ち着かせ、朝学習に取り組む習慣を身に付ける。また、部活動の入部を推進する。 人権学習を通じ、自分の意見を述べ、相手の意見を聞き、人との関わりについて考える時間を持つ。その考えを日常生活の中に取り入れて行動するよう関わりを持つ。（１学年）	４月の野外教室を機に時間を守る、あいさつをすることが随分と定着し、行動に移すことが出来ている。集会の集合状況の早さにその成果がうかがえる。 朝学習に落ち着いて取り組むことにより、１時間目から集中して授業に取り組むことができた。また、類型別進路の選択に２学期いっぱいを費やし、面談を繰り返していく中で、目標進路の確認をし、その意識を再認識できた。 自分の意見は述べるが、まだ幼さが抜けないものもいて、人との関わりにおいて日々の生活において、これからも注意してみていきたい。（１学年）	基本的生活習慣と基礎学力の定着、高校生活で身に付けておく必要がある「努力の能力」を養うよう根気強く生徒達と面談し、接してきた。これからも続けたい。 （１学年）
学校行事・授業・課外活動あらゆる教育活動において知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。 生徒の進路実現に向けて、計画的に生徒に対して進路情報の提供、受験の対策を行う。（２学年）	文化祭・体育祭等コロナの制限がありながら、生徒たちは協力し、積極的に活動を行うことができた。 第２学年の進研模試の結果は下降する傾向があるが、様々な取り組みの結果、本校は上昇している。（２学年）	コロナの制限がありながら、より充実した内容になるように関係部署と検討し、より良いものとする。 学年だけの取り組みではなく、進路指導部を中心に学校としての取り組みを構築すべきである。（２学年）
高学年としての自覚と責任を持たせ、卒業後の進路希望達成に向けて精進努力する生徒の育成に努める。 また、社会の一員として通用する人間形成を目標とする。 生徒一人一人の将来を見すえた進路希望を達成できる指導体制を整える。 本校の目標である「文武両道」へ向けて、最後まであきらめずにクラブ活動や学習に取り組む。 社会の一員として通用する基本的生活習慣を身につけさせる。（３学年）	生徒の進路希望達成に向けて補習や面接指導、そして的確なアドバイスができるようによりいっそう進路指導部と連携しながら指導体制を充実させる。 クラブ活動を引退するまでは精一杯活動に取り組み、引退後は最後まであきらめずにしっかりと進路希望達成に向けて取り組めるように指導をする。 社会人としてのマナーや協調性等、ホームルーム活動を通してその重要性を実感させる。（３学年）	

研究テーマ　「探究的な学習活動の展開」 （1） 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 （2） 研究テーマの具現化と指導の充実	評価Ⅰ(教職員) 2.5	評価Ⅱ(校園長) 3.0

取組	成果	課題と改善策
身近な地域での課題発見や解決へのプロセスを考えるための授業を展開した。また国際総合類型ではそれに加えて国際的な取り組みを行い、留学生との交流や英語での探究活動に挑戦した。（教務部）	ICTを利用し、チームにより「google スライド」でプレゼンスライドを共有して作成し、発表を行った。地域の取り組みなど、この授業を体験したことで考えるきっかけとなり、また新しい発見につながった。（教務部）	初めての取り組みで，手探りのなか取り組んだ。１年間積み上げた経験を来年度の１年生，また新２年での新しい取り組みに活かしたい。また評価についても教員の中で共通理解を諮り、生徒一人ひとりに適したものになるよう考えていきたい。（教務部）
専門種目に取り組み探究心を養う。 ２年体育科で幼稚園児への運動指導についてグループで指導案を作成する。（体育科）	高みを目指し専門種目に取り組むことで、探究心を養うことができた。 ２年体育科でグループにより様々な指導案を作成させたことで、生徒の思考力や判断力を活用させることができた。（体育科）	勝利至上主義にならず、向上心を維持する動機づけが課題である。 ２年体育科の園児指導において、引き続き園児に怪我のリスクのない内容を考えたい。（体育科）
図書分類法による配架の他に、例えば体育科の卒論の参考となりそうな図書などは別に配架するなど、利用しやすい配架の工夫を行っている。（図書部）	工夫した配架から図書を借りる生徒がおり、一定の成果が見られる。（図書部）	今後「自ら調べて探究を深める」ための一助として図書室は重要な場となると考えられる。配架の工夫などに加えて、いわゆるカンファレンスなども必要となってくるのではないかと考える。将来的には、端末を持って図書室を利用する生徒が増えることが予想されるので、新しい利用法に沿った設備の拡充も必要となるかも知れないと考える。（図書部）
総合的な探究の時間では、ICTを活用しいろいろな人と関りを持つことや自分自身の意見をまとめ、相手に伝えることを行う。（１学年）	ICT環境を活用し、世界で活躍する日本人と交流したり、県内の高校とも交流を行い幅広い知識や経験をすることができた。（１学年）	WiFi環境が安定していないためクラス全員（40名）で端末を利用することができないことが多々あり計画を変更しなければならないことがある。（１学年）
八重山諸島（石垣島）修学旅行への事前学習としてグループごとでテーマを決め、発表する。 ※英語 ＳＤＧｓをテーマにした英文を題材に、世界や私たちのかかえる問題について、グループワークや発表活動をした。（２学年）	模造紙・パワーポイント等を駆使して、環境問題から衣食住など様々なテーマで素晴らしい発表が行われた。 ※英語 グループワーク等で自分と他者との関わりを通して、より題材への理解を深め、問題意識を高められた。プレゼンテーションの基本的な技能が身についた。（２学年）	修学旅行とどのようにリンクさせていくかが課題となる。 ※英語 英語をベースに行っているが全てを英語で行うにはまだまだ未熟な点が多い。 問題点の洗い出しまではできるが普段の生活への実践に繋げるところまで進めていけるよう計画したい。（２学年）
外部の教材「locus」を活用し、「俯瞰力」「知識総合力」「課題特定・解決力」「情報活用力」「協働学習力」の５つの力を育成することを目的として、課題解決学習を行った。（探究学習担当）	動画教材を活用し「問いの立て方」「イノベーション」「サプライチェーン」などについて学んだ後、それぞれが設定した課題（本校や地域の課題など）の解決策をスライドにまとめて発表した。このことで、協働して情報をまとめ、アウトプットする力を育成することができた。（探究学習担当）	初年度ということもあり、授業者間において、各クラスの進捗状況などの情報交換に課題が残った。次年度については、全体発表をどうするかなど、最終ゴールまで共通理解した上で、指導する必要がある。また、各教科で身につけた力を生かす「知識総合力」の育成についても課題が残ったので、教科担任との連携も検討する必要がある。（探究学習担当）

学校関係者評価

（ ※ 評価Ⅲの基準　　4：よく取り組んでおり、成果が大きい　　3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる ）

学　校　関　係　者　意　見　等	評価Ⅲ
1　教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む ＩＣＴを活用した授業への取り組みがこれからの課題である。普通科への高大連携事業の拡大・内容充実が求められる。体育科では、ダートフィッシュなどを活用し、動きの可視化・数値化による効果的な学習に取り組んでいる。インクルーシブ教育を積極的に取り入れようとしている。図書委員会活動の充実を図っている。	3.1
2　心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る 人権学習への取り組みは工夫がみられる。スラックス導入を含め、女子の制服の改革などに積極的に取り組もうとしている。「人権学習」という名称では狭義になってしまうような気がします。名称変更可能であれば「人間力学習」や「倫理養成学習」ではどうか。「いじめ」が発生しないようなクラス・学校づくりのためにも更なる教職員研修が大切である。不登校生徒については丁寧に取り組まれている。家庭環境や様々な状況にもより、先生方の負担が大きすぎると感じる。カウンセリング委員会の役割に期待する。心の教育に関してはSCと連携して、チーム市尼としてカウンセリングマインドで取り組もうとしている。気になる生徒について教職員間で情報交換を密にし、支援の方向性を共有化し学校として対応できるよう支援体制を整えている。	3.1
3　家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む 地域の理解・協力は大切に。そのためには、地域での活動や学校行事を活用することを検討する。 地域との交流、生徒の自主性の取組は大いに評価できる。今後の拡大、発展に期待する。 地域と学校の連携を深めるに当たり、市尼の全教職員の理解や関りがさらに必要。 学校ホーム－ページなどで、学校の教育活動をさらに発信していかれることが望ましい。 生徒のボランティア活動を支援している。	3.2
4　安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る 自転車安全運動の知識を徹底する為、もう少し講習や講演会などの計画継続と、防災意識については学習の積み重ねが大切である。さらなる取組に期待する。 登下校のマナーは地域の方々との連携が大切と思われる。警察署や地域の方々と一緒になって安全講習会等実施されてはどうか、地域との連携によって登校時の安全指導などに積極的に取り組んでいる。今後さらに協力体制を強化されることが望ましい。	2.8
■教育目標 目標達成のためには、教職員内の共通認識醸成にいたる意思疎通を図ることが大事になってくるのではないか。知・徳・体のバランスの取れた生徒育成がなされている。社会の一員としての人間形成については、学校行事等を通じておおむね成果を上げておられるように思います。さらなる取組に期待する。 学力向上については、生徒が希望する進路の達成により丁寧に対応されることを希望する。	3.3
■研究テーマ 「探究的な学習活動」の取り組みが始まった段階なので、これからのさらなる取組みに期待する。ＩＣＴ活用のためにも更なる教職員研修が必要だと思われる。物事を俯瞰する力が自己実現するうえで大切なことと思う。一方、より深く探究する専門性を養うことも大切なことと思う。大変難しいかもしれないが、両立できる指導ができれば理想と考える。これからのテーマでもあるので、しっかり検証して欲しい。	2.9
■ 	

評 価 項 目 （Ａ：優れている　Ｂ：適切である　Ｃ：おおむね適切である　Ｄ：要改善）	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B